

特定非営利活動法人

0.48

http://nepai-mika.jp mika@ssr.co.jp

平成25年 支援の旅号 NO,48

ネパール・ミカの会

平成 2 5年3月23日発行 194-0035 東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



「一歩前へ」

NPO法人ネパール・ミカの会

理事長 齋藤 謹也

「ルンビニの夢、マズワニの希望」

副理事長 今村 旭

平成25年が始まり、あっという間に3月に入りました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

はるかネパールの釈尊生誕地ルンビニ聖地公園に思いをかけながら、日々を忙しくお過ごしではないかと思います。

あるいは、思いはいっぱいあっても身体の事、身辺の事ながあり、なかなかられる会でなげいておられる会でながなくてなげいと存じます。成いとでは、ルンビニの子ども達の成なとも関う心があれば十分で度はいも考えられます。今願いも申し上げる次第です。



さて、今般2月に第16次教育支援の旅を無事終了出来ました。 今村副理事長及び大谷副理事長の先導により、ルンビニにまた、 小学校や図書館や図書類を贈る事ができ「手から手へ」「目と眼 を合わせて」をモットーとする直接支援を柱とする教育支援が成 就いたしました。うれしいですね。

支援が始まって16年。ささやかではあっても、心をこめ時を越えた支援が出来る事が何といっも嬉しい事ですね. 私自身も、諸般の事情により参加できなかったのですが、来年こそは、次回こそはと思っているところです。

又、会員であり医師である新川先生の支援による奨学金制度を中心とする構想は、新川会員のネパール直接の旅でふれあった中で その発想が生まれました。

「継続」あきらめず、ささやかでも、一歩前にすすめる姿勢を、 新川会員の思考に具現化していると思われます。又、会員の中に は、山を愛し、ことにネパールの神々の山を敬愛されて旅に行か れる方も多いようです。どんな機会であれ、その絶妙なタイミン グをのがす事なく、出会いを大切にして本年も前に進んでいきま しょう。



さて、機は現地時間の夜10時過ぎに、無事、カトマンドゥに着陸。入国手続きもスムーズに行われ、現地理事のヌルブ・ラマ氏が出迎えてくれました。まずは空港名物、ポーターの「チップ!チップ!」の連呼。「一人\$50、6人で\$300だ!」と吹っかけられ、ラマ氏の「無視、無視!」との指示に従いやっと切り抜けました。早朝からの長い一日の終わりに、ヴァイシャリ・ホテルにやっと入りました。

明けて、2月13日はルンビニのシッダルタ校の校舎落成贈呈式典です。バイラワに飛ぶべく、空港へ。ここでハプニング。バイラワ空港視界不良で、いつ飛べるかは分からぬとのこと。待合室で2時間半待たされ、やっと出発。到着すると、学校の前には児童が道の両側に列を作り、マリーゴールドの首飾りを手に持ち、待っていてくれました。 教育支援に関しては、ルンビニ地区の学習の意欲が向上した感があり、SLC(上級校進学資格試験)合格者が格段に増えている現実をもってしても証明され、また、子どもたちも以前の支援開始初期のころよりも資質の向上感がありました。インドを経由してきたルンビニがなんだか親近感が湧いて、心の中が楽しくなりました。

式典では、齋藤理事長よりの祝辞を私が代読し、無事テープカットを全員で、交代で行いました。続いて2月14日は早朝から忙しい日でした。朝一番にマズワニ小・中・高校を訪問し、図書支援のあと、青沼義信会員より託された、町田市での蓮の花写真の入選作品を校舎壁面に展示しました。

釈尊ゆかりのルンビニでの公開展示という、写真を通じての交流が実施され、みごとな作品の数々に、関係者が食い入るように、見入っていました。

ネパール語に訳された題名を、作品と照らし合わせ、十分に観覧したひとときでした。次はティナウ小学校での穂坂家の資金提供による図書館の落成贈呈式典です。ここでもマリーゴールドの首飾りの歓迎を受け、盛大にテープカットをし、齋藤理事長よりの祝辞を代読しました。ティナウ小の場合、先の校舎建設に続いての短期間での図書館の落成という幸運に恵まれ、なんといっても、穂坂家の基金によるところが、建設が早期可能となったわけで、他の学校から羨望の的となっていました。



その後も昼食をはさみグルワニマイ小・ヤナトラハ小・中・高、 スンディ小・中校などに図書支援で訪問し、テニスボール等をプ レゼントし、庭中でみんな大騒ぎでした。

2月15日はビバルハワ小・中校、シリシリラム小、シリルンビ ニ小、マヤデビ小・中校、アディアリ小、アマリ小、などを訪 問。2月16日、早朝、建設候補校のサラ・ソティ小の土地の見 と変わらない。 学。学校関係者は不在でしたが、土地は形もよく、広さも十分あ りました。ここから、ブトワル経由で山に向かいタンセンを目指 しました。夜は地元教育関係者を7名招いてナグロ・レストラン にて食事交流会を行いました。

2月17日、トリバン大学の理系図書支援、続いて、ジャナタ JVT校の60周年の記念の感謝状を受けました。ここでも図書支援 を見学することができた。ブッタマヤホテルで「あなた達の顔 をして、学校から各個人にも感謝のトロフィー様の記念品をいた を覚えています」とホテルの制服姿の青年が話掛けてきた。な だきました。創立60年の祝辞を齋藤理事長に代わり代読。この ころから、雨が強くなり、雷雨になり、ひょうも降ったのです。 ひどい悪天候でした。その後、トリブバン大文系・モホン女子 校を訪問し両校に図書支援をしました。ミレニアム校、シリナガ 動に大変喜んでいると感謝された。 ル・サイエンス校にも図書支援。

2月18日は、早朝、雲海の向こうが晴れ渡り、スリナガルの丘 からすばらしい景観が見渡せ、ダウラギリ・アンナプルナ・マナ スルなど、天下一の絶景を十分に楽しみました。本旅行の最大の れた。 プレゼントでした。ここから山を下り、バイラワ経由カトマン ドゥに戻り、ナガルコットを目指しました。

2月19日、ナガルコットでは、星空もよく見え、景観を楽し み、朝の散歩をして、カトマンドゥに向けて山を下りました。バ ンダが実施され、車の走らないカトマンドゥ、こちらはツーリ ストの標識をフロントに掲げ、スイスイと走る。バンダは一般車 両の使用禁止なので、歩行者天国のような状況で、道が空いてい て、交通には悪くはない。政治スローガンや集会もあまり見かけ ず、あっけないくらいでした。普段の喧騒がうそのよう。

2月20日、最終日は、パトマカニャ女子校での蓮の華写真展 を行いました。屋内なので、展示はスムーズですぐに出来上が り、生徒が集まりだし、にぎやかな会場となりました。

午後2時過ぎにJICAを訪問。予約があったので、全員が会議室 に通されました。若いJICAの女性職員が応対してくれ、政府の NPOなどへの交付金の申請手続きに関する質問をして、約40分間 で現状の説明を受けました。内容を吟味すると、なかなか、申請 に輝く峰々を堪能することができた。 の段階まで行くのはハードルがかなり高いと理解しました。

さぁ、ここから帰国便の間までにバザー用品の宿題がたくさ ん出ていたので、買い物タイムに大忙し。全員で同一行動をと り、みんなで、見立てをして、あれこれ意見を言い、買い物をこ なす。ひと汗かきました。最後、ルンビニでのブッダマヤ・ガー デンホテルでのマズワニ高校出身のホテル従業員との出会いがあ りました。在校中の我々との交流を記憶していて私たちのことを すぐに認識したらしい。だんだんと成長するルンビニの生徒のよ い姿に出会えた、という、とてもうれしい出来事でした。もと もと、地域の少年たちが自立して社会に立派に進出してほしいと 願っていたことに一致します。

ひとりでも多くの人々がみな向上心に目覚め、自立の道を切 り開いてほしいものです。この少年もホテルで働いて資金を得 て、さらに自力で上級教育を受けたいと語っていました。 これからルンビニ地区での10+2の奨学生がさらに進めば、こう した、自立した青年が地域の次の世代を担い、将来に夢と希望 を与えるものになっていくでしょう。ミカの会の地道な活動を

「新たな想い出となる旅」

さらに継続していく意義があろうとつくづく感じました。

大谷 安宏

旅に出掛ける前はスケジュールに引きずられ、いざ旅に出れ ばスケジュールを引きずって過ごすように思える。

今回の旅でネパール入りは何回になるのだろう。95年カラパ タールトレッキングを皮切りに教育支援の旅で12回、中間調査 に4回、ジョムソン~カクベニスケッチの旅、一昨年のカトマ ンドゥ水彩展とネパールとラマさんには大変にお世話頂いてい る。まだラマさんとの連絡が手紙、FAX、電話の頃の支援の旅で カトマンドゥに着陸態勢にはいるとラマさんが間違いなく出迎 えてくれているか無性に不安を感じたものだった。多くの出迎 えの中に笑顔のラマさんを見付けた時の安堵感は少なからず昔

高齢者6人組は疲れも見せずルンビニ地区のシッダルタ校、 ティナウ校落成贈呈式、図書贈呈、視察と建設支援校全12校と 建設支援候補を巡り子供達の元気な出迎えを受けた。

教育の女神サラソティー祭りで祭壇が設けられ、イベントなど んとマズワニ高校の卒業だそうだ。

なんとも嬉しい対面であった。部落散策で10+2奨学金を受け ている学生の家を訪れ両親、姉、本人と和やかな面談で会の活

今までは生徒との触れ合いは主に校内であったが16年間の継 続した支援活動は幅広く地域に新たな展開できるように感じら

タンセン地区の図書支援は合同贈呈式予定したが試験日との 関係で各7校を訪れて寄贈することとしたが、セン小学校から雨 降りの長い坂道は危険との連絡に市役所前で手渡した。

昨年創立60周年を迎えたジャナタJVT校からは永年の図書支援 に対し感謝状が贈られ、2005年の中間調査で青沼さんと訪れた 際、多くの学生を前にバルコニーから挨拶した時の写真を3枚 頂き、細やかな対応に感激した。ナグロレストランでの先生方 の懇親会席上で元学長の息子さんの結婚式に招かれ、花嫁を迎 えに行く行列に参加した話題に既にお孫さんは10歳になると聞 き改めて「継続は力」とともに「継続は信頼」と痛感した。

タンセンの雨、霧、霰、雷、風はシリナガルサイエンス校の 大きな樹を倒すほどだった。ラマさんに明日の天気予報を問 うとネパールには予報はないと言う。「悪いあとには必ず良く なる」との言葉通りに天候は回復し、雲海に朝焼けのダウラギ リ、アンナプルナ、マナスルを望み、ナガルコットからも朝日

「ハスの花」展示は期待していたタンセンのロータリーは悪天 候のため断念せざるを得なかったが、マズワニ校、パドゥマ・ カニヤ校に実施することができた。

最終日にドマさん、4歳になり学校へ通うヤンチェンちゃん と遅い夕食に、はじめ恥ずかしがっていたヤンチェンちゃんも 慣れるに従い、何曲も歌を唄って楽しい一時となった。

今回の高齢者グループ全員は体調を崩すことなく、ほぼ計 画通りに行動でき、最後まで食欲旺盛であったことは、毎食ご とに大きな声で読経して頂いた森山さんのお陰かと思っていま す。ラマさん今回も色々とお世話様でした。そして皆さんお疲 れさまでした。

大塚 正男

西澤 忠

友人が「ベンガルの風に吹かれて」と題してダッカ近郊を撮った写真展を見て俺もネパールに行ったらこんなふうに撮りたいとつねづね思っていた。

行くと決まってから大谷さんから分厚い封筒が届いた。 1、支援の旅スケジュール。2、ラマさんとの電話の内容。

3、ネパール民芸品リスト。4、支援の旅についての留意事項、 など細かいところまでの気配りが有難かった。

これでは写真どころではないと半ば諦めの心境だったが、カメラは2台持って行く事にした。暫く振りの海外、スーツケースへ必要なものを入れてみたり、出してみたりまるで小学生の遠足のようで笑ってしまった。

羽田を飛び立った飛行機は予定どおりカトマンドゥ空港についた。外に出ると暗い中ラマさんはすぐに分かったが、いつもの通り蟻の如く群がってくる雲助たち。これを振り払って車に乗りこみ無事バイシャリホテルに到着した。

6人のチームワークも良く順調に日程をこなしたが寒さと雨が 二日程あり苦労したが幸い誰も風邪もひかずに全行程をこなせ たことは幸いだった。ラマさんは、この時期では何年かぶりの 雨だが農作物には恵みの雨です。と涼しい顔。

やはり地元の人は強い。また停電にも苦労した。カトマンズで買い物にでたが停電、大きな店は自家発電なのか灯りが燈っていたがTシャツでも買おうとNさんと入った店はローソク、柄や色が良くわからないが面倒なので買ってしまった。家に帰って見たら品質も良く孫たちも喜んでくれたので安心した。

ルンビニは幹線からそれるとガタガタ道とほこりに悩まされた。それに若いお兄ちゃんの運転は荒く後ろの座席では何度飛び上がったことか。遠回りでもいい道はないのと聞くと、大谷さんから、昔はここを歩いて調査にきたんだよと言われ、ラマさんからもオートバイに草が絡まり立ち往生したことが何度かあったと聞かされ、先輩たちのご苦労が身にしみたことだった。各学校では校長先生や理事の方から御礼の言葉があったが、印象に残ったのがスンディ小学校の校長先生の挨拶だった。概略は次のとおり。先ず、トキさんはお元気ですか?

私はここでこの学校を去りますが、ミカの会には大変お世話になりました。おかげさまで学校の運営も軌道にのり心おきなく去る事ができます。遠い日本からはるばるお越しいただいても何のおもてなしもできませんが、私は神に祈ります。皆様が無事にお帰りになりますことと皆様がうんとお金持ちになることを。そしてそのお金をネパールを始め世界の困っている人達に恵んであげてください。

いい言葉です。帰ったらすぐ宝くじをと考えたがまだその機会がない。



今回タンセンでの活動にも初めて参加したが、比べてルンビニの生活環境の停滞に驚く。水利未整備な農業や産業資源に乏しいことも一因と思われる。しかし「素朴さ、子供たちの瞳の輝き」に多く接することができ、そして人々の底抜けの明るさに今回も救われた。

全般の支援活動については別掲に委ねるとして、ミカの会先 輩諸氏には十分承知のことかも知れないのだが感じたことを 2,3述べて見たい。中長期的な活動計画立案等に参考になれ ば幸いである。

1. 校舎建設等の区域

ルンビニ県には6つの郡がある。我々が活動拠点としている「ルハンディッヒ郡」は東西70Km,南北60Kmと広大な地域でブトワル、バイラワの街、ルンビニ公園(LDT Area)等が含まれている。今までミカの会が建築した校舎(12ヶ所、今回全校訪問)及び建設視察校は図に示すようにルンビニ公園を挟んで南南西から東北東に約525Km (ルパンディッヒ郡の10%強、町田市の7.5倍の広さ)の区域である。この区域には最近発行された地図上で、他に15校の学校が表示されている。その地域へのアクセスの悪さや劣悪な道路、安全面などを考慮すると、すでに調査済みの建設視察校についてその状況、ニーズに基づき活動展開するのがよい様に思う。

2. 既設校の状況・維持

校舎は概ね良好に維持されているが、生徒数が倍増(従来2~300名)していて今後教室の追加建築、備品等支援物資の確保が課題となろう。また高校設置など質の向上の話題もあった。一方建築から10年以上経過している校舎も7校あり一部外壁再塗装など実施されているものの、今後維持管理に留意する必要がある。そうでないと多くの人々の浄財により建築した校舎がルンビニ小のような状況(教室内の机破損、ごみの散乱など)になることは本当に悲しい。どうしてこうなったかは定かでないが、校長始め先生方に対する意識改革についてもどのようにしていくか考えなければならない。

3. ソフト (SW)化への道

教育支援活動をどこまで展開するのか前提となるが、今までの実績の上に立ち今後活動を継続していくには、身の丈にあった展開をするにしても財源確保が最大課題の一つである。知恵と工夫が求められる。例えば、校舎建築をスローダウンして、図書支援、民話や地元の歌の文書化、音楽教育などに力点を移すのも一案かと思う。更に"JICA"でも話があったがSWへの展開が必須のように思う。これを進めるための主なKey-Wordを箇条書きにしてみると、①何が出来そうで、何が出来そうにないかの研究、②組織・体制(特に現地ラマさんの手足となる人材)、③助成金獲得、④他組織との協同の可否、⑤ごみ処理問題 などがある。

今回ルンビニ〜タンセンと行動して日頃の体力維持、特に足 腰鍛錬の必要性を痛感した。タンセンの坂道、学校の階段登り 降りなど年と共に衰える体力を意識的に鍛えなければ、活動の 継続は覚束なくなりそうだ。

終わりに今回もラマさん、同行の皆さんに大変お世話になりました。有難うございました。



「ネパール・教育支援の旅の所感」

森山 邦男

釈尊が、生きておられた時のお話です。お釈迦様の弟子の一人の周利槃特(しゅりはんどく:チューダ・パンタカ)は、自分の名前が覚えられない程の頭が悪い人であったため、修行に支障を来していました。そこで釈尊は周利槃特のことを心配されてホウキを渡し、一所懸命に「塵を払わん、垢を除かん」と唱えながら掃除しなさいと言われました。一心不乱にあらゆるところを掃き清めた周利槃特はある時、ついに掃除によって悟りの境地に至ったのです。

愚昧ながらもどこまでも己の道は己で求めて行くという必死の 思いと、塵を払い、垢を除くという釈尊の教えとが合い間って、 周利槃特でも一心不乱な心の中で、その問いの機が熟し彼はさと りを得たのです。誰よりも愚かだった周利槃特がさとりを得たこ とに、周囲が驚いていると、釈尊が静かに言いました。「さとり とは、広くまた多くのことを学ばなければいけないということで はないのです。ほんの些細なことであっても、たとえ短い教えの 言葉であっても、その言葉の真実の意味を理解し、ひたすら求道 して行くならば、必ずさとりは得られるのです!と。

私にとって「ネパール教育支援の旅」は釈尊への報恩行と思って居ります。日本が現在、如何なる事が生じても、斯く秩序が保たれ平和で豊かであることは仏教の伝来無くしてはあり得ないとも考えております。

今回の「ネパール教育支援の旅」は3回目でしたが、少しく感じていることが二、三有ります。

その一つに、果して国が豊かになり、また整備されれば世の中は幸せであるのかということです。彼の地のネパールのそこでは、ほんの僅かでも与えられることがあれば大変なめぐみと感じ、素朴に喜びに包まれるということでした。(この思いは或いは尊大な思い込みであるかもしれませんが)

2月12日の早朝に町田を発ち2月21日木曜日の午後4時に町田に帰着いたしました。その中の8日間の喧噪・埃・塵・悪路の道、時として異臭漂うネパールから比べて、整備された道路、清潔そして秩序が保たれている日本に帰国した時、まさに日本に帰って来ましたという実感でした。

然し、ネパールには何処でも眼が黒くキラキラと輝いている子供達が沢山沢山おりました。また彼の地には活気ある生活感が感じられて羨ましくもありました。日本は豊かになり過ぎて、恵まれることが当然の権利として、当たり前になり有難さへの感謝の心が少ないように見受けられます。

二つ目、今回の教育支援の旅で、漸くネパールの実情が少し判り始めました。NPOネパール・ミカの会齋藤理事長が1996年以来から始めて17年経過致しましたネパールへの教育支援ですが、まだまだ充実していないネパールの教育実情ですが、ネパールは地方に行くほど教育格差があると聞いております。

また、特に女子が高学年になるほど就学率が低くなっていくといいます。例えば小学1年で女子就学60%が、5年生になると10%になってしまいますということ、また、いまだ未就学の多くの児童がいると聞いております。このことは、「ネパール・ミカの会」現地理事ラマさんのお話では、学校に行ったことのない親がまだ多く、就学の必要性を感じていないことと、子ども達が労働力の重要な一役を担っておいることが、大きな問題となっていると言っておりました。此れからも微力ながら一校でも多くの学校設立・教室の増設を図る為に頑張らねばと感じました。

また、もう一つの大きな問題としてゴミの問題を感じております。何処の学校も校内がゴミだらけで、学校だけでなくネパールの国中ネパール国内いたる処、お釈迦様の生誕の地「ルンビニ公園」ですら、ゴミの山でした。先生達も全く環境整備・美化意識がないようにも感じられ、絶望感すら持ってしまいます。

所々で僭越にも家の中を見せて貰ったのですが、公共の場は ゴミだらけでも、当然ながら自宅の内は整理・整頓されていて 片付き奇麗でした。先生達の美化運動に対する問題意識への啓 発、清掃は精神文化高揚の基本であり、また生活および経済効 率向上が其処に帰着致しますので、ネパール・ミカの会として は「教育支援の一環として」学校内を奇麗にするという約束だ けは最低限尊守することを条件して支援していくことを明確に して、環境美化意識を根付かせることを目標とすべきと考えま すが如何でしょうか。

彼の地に釈尊の誕生が無ければ現在の日本文化も存在し得なかったことを考えれば、微力ながらでも不断のネパールへの援助の努力をしなければと思って居ります。

私事で恐縮でございますが、3年前の11月から「世界平和」の誓願と「ネパール教育支援」の基金集めの為にJR町田駅前で手甲脚絆(てっこうきゃはん)、どんなに寒い時でも草鞋に素足の托鉢を致して居りますが、現在は、それに合わせまして「原子力発電所全廃」を道行く人に訴え掛けております。

先日、次男夫婦がニューヨークからロスアンジェルスに引っ越す為、車で米国横断をするとのことで私に一緒に行かないかと声が掛りました。昔のアメリカのTV番組『ルート66』をなぞって4月下旬から5月上旬に掛けて米国大陸を横断して行きます。(旧「ルート66」は現在、役目を終えて廃線となり、記念碑的に景観街道として指定されている部分しか残っていないそうです)

今回の「ネパール教育支援」の旅で得たことの一つに、ルンビニの日本山妙法寺の若い清僧大西邦明師から教えて頂いたことで、かつて日本山妙法寺のご開山日蓮宗藤井日達上人が「僧侶は僧衣で街中に出ろ」と言われたそうです。ということで、まずセントラルパークの東側に有りますメトロポリタン美術館前で托鉢をする事、米国大陸横断中も僧衣で運転して行き、また途中の要所要所の所で、托鉢をしながら「世界平和」と「ネパールへの教育支援」を訴えて行こうと思って居ります。

余談ですが、大西邦明師と失礼ながらまるで可愛い小学生にしか見えないベトナムの尼僧と共にルンビニの街中を早朝暗い4時から5時間程、団扇太鼓を打ち「南無妙法蓮華経」を連呼しながら歩きましたが、私の為に歩くスピードを遅くして頂いたのにも拘らず、恥ずかしながらもしばしばこの二人から遅れること10m程、何度も何度も走っては追っかけることを繰返しておりました。

最後に、何時もながらのことですが、担当理事の方々の事前 準備から現地でのお世話役に感謝致しまして、「ネパール教育 支援の旅」が無事に円成致しました事をお礼申し上げます。有 難うございました。

佛祖の教えは、『如何なる人にも、慈しみ深く、また、等しく、広く、開かれております』ということを皆様方にお伝え致しまして、筆を置きます。



「第16次ネパール教育支援の旅に参加して」

吉田 久子

私にとっては2年振りの支援の旅でした。多少、行程に違いはあってもどこかなつかしさを楽しむ事も出来るであろうと期待して出発しました。5名の連れの男性方は大変な健脚者であるとお聞きし、迷惑をお掛けしない様にと心掛ける事にしました。

「エエ・サービス?」

香港を経由してカトマンドゥ空港に到着、ラマさんの出迎えを受けました。何人かのネパール人が親しげに「こんにちは」と近寄って来ました。ラマさんの関係者の方かなと思い、トランクを渡すべきか戸惑いながら車の方に歩いて行きました。車のところに着くや否や一人のネパール人がチップ一人10ドル、五人で50ドルと手を出して来ました。そんなはずはないと皆応じないと、一人1ドルと値下げです。ラマさんの指示通り無視して車に乗り込みました。

途中は道路の拡張の為、各家の前部分が壊され雑然としていました。見覚えのあるホテルが近いと感じホットしました。それにしても2年ぶりのカトマンドゥの変化に少々びっくりさせられました。

「つなひき」

ルンビニへ向かう為、カトマンドゥ空港の国内線空港に着きトランクを押して行くと5人の若者が近づいて来て、素早く4個のトランクを代車に乗せ4人が付き添い1人が私と大塚さんのトランクを押して行きました。後を追うように私たちも早足で入り口に向かって行き、トランクを受け取り、中に入ろうとすると「チップ」「チップ」と言ってトランクを離そうとしません。ごったがえす中でのやりとりに、気持ちはあせり、つなひきになってしまいました。ラマさんに声をかけると戻って来て2個のトランクを引き取る事ができました。

後で考えると。それが彼等の収入であり生活費となるのだと思いました。チップ制度に慣れない私としては、素直に「ありがとう」とチップを渡せなかった事にいつまでも悔いが残りました。どこかでこの償いをしなければと思いながら旅をしました。

「子供達、待ちくたびれているかな?」

7時に朝食を済ませ、ルンビニ行き10時20分発に搭乗する為に8時20分にホテルを出発です。バイラワ空港が濃霧の為に約2時間遅れて離陸です。「子供達はさぞや待ちくたびれているだろうな」車中で話し合いながらシッダルタ校へと向かいました。学校が近くなると子供達が2列に並んでいるのが目に入りました。嬉しさがこみ上げて来ました。車を下り、子供達の列の間を進むと「ナマステ」「ナマステ」の声と共に花の首飾りぜめにあいました。頭の上から顔が見えなくなるまで掛けてもらいながら、どの子の瞳もキラキラ輝いていて本当に倖せのひと時でした。長い間、幼い子供達を相手の仕事をして来ましたが、子供の瞳ほど美しい物は無いと常々思っていたところ、このルンビニの子供達の瞳はキラキラ輝いていました。

村人や保護者も参加して無事に開校のセレモニーが終わり、持ってきたおみやげを配りました。子供達の「ナマステ」「ナマステ」の嬉しそうな声に、これが本当の「手から手へ」だと痛感しました。学校を去る時、いつまでも、いつまでも手を振ってくれました。きっと、この子供達は一生懸命に勉強をしてくれるでしょう。と期待しながら学校を後にしました。

「再び聖地に立つ事が出来た!」

法華ホテルで遅い昼食をとり休憩後、聖地公園に向かいました。「再び聖地に立つ事が出来た!」私にとって感慨ひとしおでした。前回と違い靴を脱いで歩くようになっていました。菩提樹の根元に座り、しばし無心状態でいましたが、こんな平和なひと時を味わえた事に感謝しました。



「菜の花盛りの村」

菜の花が美しい田園風景の中、ティナウ校図書館落成贈呈式に向かいました。女性の校長先生がにこやかに出迎えてくれました。子供達の教育が行き届いていて、とても好感が持てました。女生徒がネパール国歌で歓迎、私たちも君が代を斉唱しました。

「広い土地に学校が建つといいね」

タンセンに向かう途中、学校建設予定地を視察。そこには 既に2教室が建っていました. 畑で菜種を収穫していた男性が やって来て、土地の説明をしたり、通りがかりの女性も一緒に 学校の話をしてくれました。広い広い土地でした. 村の人たち の期待が伝わって来ました。早く学校が建つことを願いたいで す。

「思いがけずに雹に会う」

タンセンでは雨になり、2日目には雹も降ってきて驚かされました. 学校訪問が少々大変でしたが、予定通り行いました. タンセンは街までの往復が坂道なので大変でした。それでも翌朝の山々は本当に美しかった。時間を忘れてみとれてしまいました

カトマンドゥに戻り世界遺産を散策し、古い町並みの美しさに接しました。皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

「二つの落成寄贈式」

カトマントゥ空港は霧に閉ざされバイラワ便は2時間遅れのフライトでシリ・シッダルタ校の落成寄贈式は大幅な遅れにも係わらず先生方はじめ関係者、学生は温かく迎え入れて呉れた。

シリ・シッダルタ校の建設計画は2009年中間調査報告が理事会で建設候補校に決し「シリ・シッダルタ小中校増設支援事業募金」による資金確保とし、2010年より会員、会員の紹介により広く募金活動が展開され建設が開始された。

募金活動は2011年3月の東日本大震災により被災した会員 出身校の支援目的に転じ、2期建設資金募金により確保される に至った。

寄贈式は今村副理事長により祝辞、理事長挨拶文が読上げられ、東日本大震災により工期が大幅に伸びながらも多くの方々の善意により3教室の落成式を迎えられた喜びを伝えた。

ミラス校長より多くの善意により校舎が増設され教育環境が向上され、生徒数も増すことが期待され、ミカの会の支援と交流は両国の親交に繋がるものと感謝の辞が述べられた。

テープカットに続き、四つ葉会さんに準備頂いた布袋、 ノート、鉛筆を手渡すと長い時間待たされながらも生徒たち の笑顔が並んでいた。

今回は間に合わなかったが一定の募金者名盤が掲示される。

マズワニ校での「ハスの花展」の展示を済ませてティナウ 小学校図書館落成寄贈式に向かう。

校庭に続く道の両側にレイや花束を持つ生徒たちが長い列を 作っている。顔も隠れるほどに掛けられたレイに戸惑い顔の 参加者が印象的だった。

2010年穂坂家の支援により3教室を落成寄贈につづき、今回穂坂家親族、知人等の支援により図書館が建設された。今村副理事長の祝辞と理事長挨拶文が紹介と図書贈呈が行われた。校長から校舎に引き続き図書館の建設に穂坂家とミカの会に地域を代表しての謝辞につづいて校舎建設時よりも大幅に増えているように思える子供たちにノート、鉛筆を配布した。ラマ氏によると各校とも生徒数は増えており、校舎建設支援校合計で約5000名になると言う。



仮称)新川教育基金 10+2 s 進学をサポート開始

「10+2 の生徒と歓談しました」

新川 恒夫

2012年12月30日、それまで一週間以上欠航していたバイラワ行きの飛行機に運良く搭乗でき、ルンビニに到着. 冬のルンビニは朝夕中心に霧のかかる事が多く底冷えがする. 毎年凍死する人が多数でるというのも納得できる。

笠井ホテルは、正月という事もあり日本人も何人か宿泊していたが、飛行機が欠航していたのでカトマンドゥから10時間以上かけて車できたとのこと。

かなりの難行だったのではと思いやられた。翌日、大晦日、 こちらでは正月の雰囲気は皆無、その中で予定通りマズワニ高校に向かい、11年生、12年生25人と面談するも、全員出席してくれた。2年前に会った時と比べて多少大人びていて、10+2に通っているという誇りもあるのか堂々として見えた。

前回会った事も覚えていてくれて、早々に打ち解けた。今回は若い女性2人も同行しているという効果もあったかもしれないが。

早速、1人ずつ通学の状況、学校で学んでいることなどを聞いて回ったが、やはりバイラワまで通学している生徒が最も多く、自転車で通学している生徒が目立った。バスもいたがバス代もネパールの物価を考えると、馬鹿にならない額になるなと少々驚いた。バイラワに下宿している生徒もいて、下宿代は1500ルピー、食事は自分で作っているとのこと。授業は、生徒数の影響か2部制が多く、早い生徒は6時から開始と言っていたが、冬のルンビニの4時はかなりきついものがあるなと少し考え込む。1人女生徒でティラウコットの近くの学校に通っている子がいて、なぜそんなに遠いところに行くのかと聞いてみたところ、マズワニ高校に通っている時には親戚の家に下宿していて、今はら自宅から近い所に通っているとのこと。そういうこともあるのかと少々驚いた。

授業の内容は、会計学、営業、商業など日本で言えば何々商業高校と言ったイメージだったが、1人は教育学という子もいることはいた。将来は、ホテル、地元の小さな金融機関(信用組合、あるいはもっと小さい小口のイメージか)などに勤めたいと希望を述べていた。理系の学科はでてこなかったが、ラマさんの話ではこの地区のレベルでは無理なのだろうという答えが返って来た。

最後に生徒が代表して是非この地区に10+2を設立して欲しいと 希望を述べていたが、実情を考慮すれば確かに生徒達の利便性 はぐっと高まると想像される。

遅い昼食をとってから、午後は承諾を得られた生徒の自宅を訪問した。最初の想像では、10+2に通う生徒の家だからそれなりの家庭かと思っていたが、必ずしも想像は当てっていなかった。4軒訪問したが、1軒は生徒が農作業の手伝いに出かけていて会えず、3軒の家で母親などから話を聞いた。母親は全て文盲で、8才で嫁いで来たと言う人もいて、そういう話は耳にしていたが直接本人から聞いたのは初めてなので現実感がぐっと増して来た。母親の話では、子供たちの教育に関して当然の事ながら好意的な反応が多く、期待している印象を受けた。

3軒のうち1軒は特に貧しい印象で、ラマさんもこの家はかなり貧しいと思いますと素直な感想を述べていた。幸いその日の午後は陽射しもあり、暖かい時間帯だったので日本の昔の農村風景などを思い浮かべながら村の中を少し散策する事もでき、本当に有意義な経験だった。

最後に今回の予定にははいっていなかったのだが、アマリ 小学校も訪れてきた。その理由は、生徒たちへのお土産として ボールペンをたくさん持って行ったが、最後にまだあまり、ど こかに配ろうかということになったが、アマリ小学校ならちょうど人数からしてぴったりではないかということになった次 第。校長は最近はミカの会の人たちをみかけることもないが、私たちの事も忘れないで欲しいとコメントしていた。今回の面談を通じて、ルンビニの教育事情は確実に向上していると結論づけてもよいと思っています。



ただすそ野があまりに広く、頂上があまりに高いので、自分たちの居る位置がどのへんか良くわからないといった気もしております。先がなかなか見えないときには、確実に一歩一歩、歩いて行く、それしかないというのが自分に対する結論です。



「ネパールの現実と日本の恵まれた環境」

厚木市 保坂早希

新川先生にお誘い頂き、初めてネパールを訪れた。まず驚いたのが寒さとインフラである。私達が訪れた12月は昼でも霧が立ち込めており、中々気温が上がらない。その上1日15時間以上の停電、そして1週間に1回しかこない水。今の私たちの生活からは考えられない環境であった。

最初に訪れたのはマズワニ小中高校である。校長先生に挨拶をさせて頂き、そのまま校内を案内して頂いた。机が2,3個あるだけの職員室、本棚が1つしかない図書室。どの部屋も決して十分とは言えない設備しかなかった。この日は新川先生が来られるということで、マズワニの卒業生で普段はそれぞれ10+2に通っている生徒25名が来ていた。教室内に勿論電気はない。ガラスのない窓をあけて、冷たい風が吹き付ける中、授業を受けるのだ。しかし生徒達は本当に凛としていた。私達が入るときちんと立って挨拶。先生や私達のスピーチの際にも誰一人内職、雑談することなく傾注し、相槌を打ちながら聞いていた。

ミカの会の存在も全員が理解し心から感謝しているのが伝わってきた。私もついこの間まで学生だった訳だが、正直現在の日本でここまでしっかり授業に参加し、意欲的に臨む生徒は中々いなかったように思う。

続いて訪れたのがアマリ小学校である。ここでは1年生のクラスを見学させて頂いた。約50人の子供達が冷たいコンクリの床に座っていた。明らかにまだ2,3歳の子供達も、小学校に入学したての子供たちが親代わりに面倒を見ている為、家に置いてくる事ができず仕方なく連れて来られているのだ。給食やお弁当も勿論ない。それでも毎日、6,7歳、そしてその弟、妹達も無駄なお喋りをせず、じっと冷たい教室に座って授業を受けているのだ。

放課後には生徒の家を何軒か訪問させて頂いた。初めに訪れたのは村の入り口近くにあるA君宅。2階建てだが鍵はない。面積としては私が住んでいる1Kのアパートと同じくらいであろうか。ただトイレや風呂はない。そこに家族10人で暮らしているとのことであった。穀物を干しているベランダの床に参考書とノートを置き、外で勉強していた。A君の母親にラマさんから話を聞いて頂いた。母としては「息子が一生懸命勉強しているのが嬉しい。将来的には家をもっと楽にしてくれると助かる」とのことであった。A君自身もそれを自身の役割だと認識していた。その後、もう1軒Bさんの家を訪問させて頂いた。藁と土、古いビニールシートで作られた、本当に簡素な造りの家であった。Bさんの父親は定職がなく、母親も家で米の分別をしているだけだ。

10+2の生徒の中でも1番貧しいというのが一目でわかった。 学校に来ているだけでは、その子の生活水準というのは全くわからない。 どちらかといえば、進学している生徒たちは裕福なイメージすらあった。しかし実際には違った。 勿論、公立の学校ということで、ほとんどが裕福ではない家庭で育っているが、その中でも明らかな貧富の差があった。

今回のネパール訪問を通して日本とネパールの環境や課題の違いを大きく感じた。日本では学校や教育に関しても環境が整っているが故に、それが当たり前になってしまい、学べることへの感謝、授業へ臨む姿勢等が失われており、学級崩壊などの問題が頻発している。一方でネパールでは環境が整っていないからこそ、子供達の学びたいという思い、意欲が溢れ出ているのを感じた。そんな子供達に支援をするというのは非常に大切なことだと思う。

支援の仕方もただ投資をするというのではなく、実際に現状を自身の目で確認し、ラマさんのような事情をよく知る方としっかり情報共有をしながら、どこにどのタイミングで何を支援するかというのを考えるのが大切だと感じた。今回の旅では、普通の旅行では決して経験できないことを沢山させて頂き、本当にありがとうございました。今後もミカの会様の発展、ネパールの教育環境の改善をお祈りしております。

「ネパールで感じたこと」

厚木市 古賀 渓子

この度、お知り合いの方々とお正月休みを使い、初めてネパール旅行を経験して参りました。私たちは、ルンビニ、ポカラ、カトマンドゥと街を巡りました。今でもそれぞれの街が同一国にあることが信じられないという思いがあります。想像以上に国内での貧困の格差が激しいと言う事が率直な感想です。

最初に訪れたルンビニは霧の深い街で、いつもしとしととした霧に覆われていたように覚えています。子どもたちは家の仕事と学校を両立させるため、朝の5時に家を出発し、午前中に勉強して午後、また家の仕事を手伝いながら勉強をすると聞きました。自宅を訪問させて頂いた男の学生さんは屋上で難しそうなファイナンスの勉強をされており、そちらのお母さんに息子さんのことを伺いましたら、「立派になって家族をたすけてもらいたい」と仰っていました。勉強することが、お金を得ることに直結している世界なのだと実感し、日本で学ぶそれとは全く重みが違うのだなと思いました。

また、それほど寝る間の時間を惜しんで勉強しても、大学に行くことの出来る学生さんは一握り、ましてや就職出来る学生さんはさらに少ないと聞き、とても残念に感じると同時に雇用率の向上には何が必要なのだろうかとしみじみ考えてしまいました。

とても印象に残っていることの一つとして、学校にある図書室の本です。文字を読むことさえ出来れば、本は人を選びません。平等に人に知識を与えてくれます。小説が読めれば精神的な豊かさも得られるでしょう。ただ、経済的な現状から、本棚の本は参考書などが殆どでした。さらに盗難を危惧して施錠されていました。ルンビニで生きる子どもたちが本に囲まれて生活できたら、もっと世界が広がるだろうと思います。学校訪問では、そのような気づきももらうことが出来ました。

ポカラでは、アンナプルナの夕焼け、日の出を見る機会に恵まれました。壮大な山々が朝日で紅色に染まっていく様子はとても美しく、ネパールに来て良かったと思えた瞬間でした。

最後に訪れたカトマンドゥは、チベット仏教の建物が非常に 多くあり、宗教が街や生活と一体化している様子が非常に興味 深かったです。様々な表情のお釈迦様の像を見れたことも嬉し く思いました。

また、生き神様と呼ばれる少女がいらっしゃる街であったとこにも強い宗教性を感じました。

また、ネパールでは沢山の物売りの方々に遭遇しました。 「二十枚で千円. 安いよ。便利よ」と日本語を操る女性たちに驚くことが多くありました。そんな中、非常に印象深かった出来事があったので、そちらの出来事を記載して、この感想文を締めくくりたいと思います。

物売りの女性は、私たち一同の断りにもめげることなく、根気強く商品を買ってくれるよう話しかけてきました。私と、もう一人一緒に行った女性は何とか断ったのですが、もう一人の方は優しく、最後にはとうとう袋を買っていらっしゃいました。さらに、その女性は旦那さんと一緒に出稼ぎに来ていた様子でしたが、どうやら新婚であった二人をポラロイドカメラで撮影し、写真をプレゼントされたのです。その様子に何だか心がとても温まる思いがしました。その夫婦はとても嬉しそうにしておりましたし、その光景を見ていた子どもにねだられ、二人くらいの子どもにも写真を撮ってプレゼントされていました。

ネパールの思い出は?と人に尋ねられたときに。なぜか真っ 先に思い出してしまう光景の一つです。当たり前かもしれません が、心が穏やかであれば、人に優しく出来るのだな、まわりを見 渡す余裕がうまれるのだな、と思ったのです。 私自身もそうでありたいと強く思いました。



『事務局便り』

桜の開花が今年は早いようです。今年もあちらこちらで桜祭りが 開催されます。これからの予定にありますように、ミカの会では 2か所のさくら祭りに出店いたします。皆さまのご参加、ご協力 をお願いいたします。

これからの予定

3月31日(日) 中央公園さくら祭り 町田旭町体育館まわり

4月6日(土)7日(日) 相模原さくら祭り 相模原市役所周辺

4月20日(土) 定例会 こもれび堂 PM 1 時30分~

5月18日(土) 2013年度定期総会 町田市民ホール第4会議室 PM 5 時30分~

(総会終了後、市民ホールレストランにて懇親会があります)

【編集後記】

この会報を編集している時に東日本大震災から2年目を迎える3月11日になりました。まだ数万人の方々が住み慣れた町に帰ることも出来ずにいます。原発もまだまだ安定しているとは言えないようです。アベノミクスで円安、株高. 何やらミニバブルの様相も。第16次ネパール教育支援の旅・新川会員の教育支援の特集号となりました。皆さんの撮影した是非お見せしたい写真などもあります。なんとか総会で紹介したいものです。5月の総会で会員の皆様やラマさんに会えることを楽しみにしています。ラマさんとの親睦旅行も予定されていますので是非参加ください。S.K